

肺高血圧症領域における遠隔診療の有用性に関する研究

国立循環器病研究センター、セコム医療システム株式会社

参加研究について

平成30年3月に厚生労働省から「オンライン診療の適切な実施に関する指針」が通知され、また新型コロナウイルス感染症拡大のを受けて、急速に情報通信機器を用いた診療等の導入と簡易展開が求められています。

弊社では「肺高血圧症患者に対する遠隔診療の有用性に関する研究」

試験代表者：大郷 剛 先生（国立循環器病研究センター 肺高血圧先端医療学研究所 特任部長）

試験事務局：青木 竜男 先生（国立循環器病研究センター 肺循環科 医師）

の研究において情報通信機器分野（商品名：セコムVitalook）での参画をいたしております。

セコムバイタルック

セコムバイタルックは生体データをリアルタイムに収集・蓄積する在宅診療支援システムです。医師や看護師が、遠隔から患者さんのバイタルサインなどの情報確認が可能です。他、オートアラートとビデオ通話、目的に沿ったデータ表示、連携機関との情報共有などを特長としています。



研究概要（肺高血圧症と遠隔診療）

TV電話を用いたオンライン診療

血圧や酸素飽和度なども同時に観察



自宅



国立循環器病研究センター

オンライン診療、生活指導

本研究では、すでに臨床で利用されている在宅診療支援システム（セコムVitalook®、セコム医療システム株式会社）を用いて、オンライン診療を行い、肺高血圧症患者さんの生活の質や不安感の改善度を調査しています。 <研究担当医：国立循環器病研究センター 青木 竜男>

セコム医療システム・会社概要

セコムのめざす誰もが安心して生活できる社会を実現する一翼を担うべく、メディカル事業を手掛けています。大切なご家族の健康を守るために「医療」から「介護」「健康・予防」まで、「ICT」を活用して、切れ目のないメディカルサービスを提供しています。

